

4 レッドリストの選定方針及び結果

(1) 選定方針

ア 評価対象

評価対象は、県内に記録のある、または今回の調査で確認された野生生物とした。原則として外来種（国外・国内）は対象外とした。ただし、外来かどうかの判断が困難な場合は対象とした。

① 既存分類群

<植物>

- ・維管束植物の種、亜種及び変種を評価の対象とした。
- ・品種及び雑種は除いたが、分布上、また、遺伝的、形態的に注目される場合は対象とした。

<動物>

- ・以下の7分類群について、種、亜種（分類学上亜種に細分される場合は、原則として亜種）を評価の対象とした。
- ・哺乳類：海棲のものは対象外とした。
- ・鳥類：基本的に全種を対象とした。
- ・爬虫類・両生類：生涯のすべてを海域で過ごす種は対象外とした。
- ・淡水魚類：河川・湖沼の淡水域から汽水域にかけて生息するものを対象とし、淡水域や汽水域を生活環のうえで必要としない海産魚類は対象外とした。
- ・昆虫類：トンボ目、ゴキブリ目、カマキリ目、ナナフシ目、ハサミムシ目、バッタ目、コウチュウ目、チョウ目及びカメムシ目（水生種）を対象とした。
- ・陸・淡水産貝類：陸域、淡水ないし汽水域に生息するものを対象とした。

② 新規分類群

- ・以下の2分類群について、種、亜種（分類学上亜種に細分される場合は、原則として亜種）を評価の対象とした。
- ・クモ類：真正クモ類を対象とした。
- ・菌類：子囊菌・担子菌（キノコ類）を対象とした。

イ 評価方法等

① 既存分類群

<植物>

- ・維管束植物の評価は、平成15～28年度に実施した文献、標本調査及び平成21～28年度に実施した現地調査の結果を踏まえるとともに、部会員から提供のあった研究成果、知見等に基づき定性的評価を基本とした。
- ・現地調査で得られた産地の状況及び産量、過去の記録及び産量、採集圧の大きさや開発の影響等を基に評価した。なお、全国的な分布、産量、分布の限界など分布の重要性及び保護の状況なども加味した。

<動物>

- ・評価は、平成15～28年度に実施した文献、標本調査及び平成21～28年度に実施した現地調査の結果を踏まえるとともに、部会員から提供のあった研究成果、知見等に基づき定性的評価を基本とした。
- ・定性的評価においては、潜在的な危険性（生息分布の局限、生息環境の限定等）も考慮した。
- ・県内のみの生息状況に基づいて評価した。なお、特に全国的な視野での配慮が必要な種（本県に

おける生息状況が全国的な分布に大きな影響を与える種、生息環境が全国的に一律に悪化している種等)については、全国的な生息状況も加味して評価した。

- ・過去の生息状況との比較は、既知の良好な生息時期を基準とした。
- ・生息情報の集積がある昆虫類の一部(トンボ目・チョウ目等)については定量的データを加味して評価した。

② 新規分類群

- ・クモ類の評価は、平成 21～28 年度に実施した文献調査及び現地調査の結果を踏まえ、定性的評価を基本とした。
- ・菌類の評価は、平成 21～28 年度に実施した文献調査及び現地調査の結果を踏まえ、定性的評価を基本とした。

(2) 結果

ア 掲載種

レッドリストに掲げられた種(亜種、変種を含む)の集計を別紙 2 に示す。

イ 各分類群の特徴・変更理由等

分類群毎の、評価対象とした県産種数に対する絶滅のおそれのある種の割合、及びレッドリスト種の割合を別表に示す。

また、分類群毎の減少傾向にある種の特徴等を以下に示す。

① 既存分類群

<植物>

- ・ラン科植物は採取による影響が大きく、レッドリストに 95 種が選定され、内 69 種が絶滅のおそれのある種に該当した。カヤツリグサ科も 51 種と多く選定された。
- ・湿生植物では開発及び管理放棄などによる生育環境の乾燥化が進み、また、海浜植物は開発による影響が大きく、特に絶滅危惧Ⅱ類とされた種が多かった。
- ・キキョウなど、里地・里山にある身近な植物の中で減少傾向にある種の追加選定により、レッドリスト対象種が増加した。
- ・新規記録または個体数・生育環境の減少状況から、クサタチバナ、クロクモキリソウ、ハタベカンガレイなど 39 種を新たに追加した。
- ・シモダカンアオイは、アマギカンアオイに統合されたことから除外した。

<哺乳類>

- ・絶滅危惧種から情報不足種に選定された 23 種のうち、約 65%にあたる 15 種がコウモリ類であるが、一部の洞窟性のコウモリの減少が顕著であった。原因として、生息できる洞窟の減少(特に伊豆地域の鉱山跡など)や環境の変化が考えられる。なお、樹洞性のコウモリも洞のある大木の減少等、生息環境の悪化が危惧された。
- ・コウモリ調査によってノレンコウモリ、クビワコウモリ、モリアブラコウモリ、オヒキコウモリの 4 種が新たに確認されたほか、個体数や生息環境の減少状況からアズミトガリネズミ、ハタネズミの計 6 種を新たに追加した。

<鳥類>

- ・絶滅のおそれのある種に選定された 52 種のうち、シギ・チドリ類が約 3 割、猛禽類が約 2 割であった。シギ・チドリ類は湿地の減少、猛禽類は必要とする広大な生活圏への圧迫及び採餌対象の減少等が原因と考えられる。

- ・ 個体数の減少や生息環境の悪化からヘラシギ、ササゴイ、オオソリハシシギなど 6 種を新たに追加した。

<爬虫類>

- ・ 絶滅のおそれのある種とされたのは、アカウミガメ 1 種だけであるが、爬虫類全般に、餌動物である両生類の減少とともに危機水準に近づいていると考えられる。
- ・ 個体数や生息環境の減少状況からニホンイシガメを新たに追加した。

<両生類>

- ・ 絶滅のおそれのある種に選定された 5 種のうち、サンショウウオ類が 60%であった。これは、サンショウウオ類が水辺・陸地の両環境が良好に保たれないと生息できないことに起因すると考えられる。
- ・ 遺伝的・形態的に新たに種または亜種として分類されたものについては、それぞれ再評価した。
- ・ 個体数や生息環境の減少状況からアカハライモリ（中部日本系統、南伊豆集団）、ツチガエル、タゴガエル、ネバタゴガエルの 5 種を新たに追加した。

<淡水魚類>

- ・ 絶滅のおそれの高いものは純淡水魚のほか、河口・汽水域に生息する種が多く選定された。これは、平地・丘陵地、河口域の干潟など常に開発の危険にさらされている場所を生息地とする種が多いためと考えられる。
- ・ 個体数や生息環境の減少状況からニホンウナギとドジョウの 2 種を新たに追加した。
- ・ 遺伝的・形態的に 1 種が複数種に細分化されたものについては、それぞれを再評価した。
- ・ 確認情報が不確実なもの、無効分散と考えられるものは除外した。

<昆虫類>

- ・ 海浜、河原、湿地、ため池等を生息地とする種が多く選定された。これらの消失や利用形態の変化、遷移の進行などにより、生息環境の悪化が著しいためと考えられる。
- ・ 草原性の種や里山的環境を生息地とする種が多くあげられた。これは、草刈りや野焼き等の管理が行われなくなったため、遷移が進行したためと考えられる。
- ・ 個体数、生息環境の減少状況からアマギクチキウマ、オツネトンボ、クモガタヒョウモンなど 45 種を新たに追加した。
- ・ 分布上の観点から外来種と判断されたミツモンヒゲナガゾウムシは除外した。

<陸・淡水産貝類>

- ・ 沿岸部から低山の自然度が高い森林、石灰岩地、そして中小河川の河口部などの陸水域に生息する種が多く選定された。これは、天然林の伐採や水域の改修などによる影響と考えられる。
- ・ 個体数や生息環境の減少状況からベニゴマオカタニシ、ヤマモトゴマオカチグサなど 7 種を新たに追加した。
- ・ ヒラドマルナタネガイは生態に関する知識が得られ、県下に普遍的に生息することが明らかになったため、レッドリストから除外した。

② 新規分類群

<クモ類>

- ・ 南アルプス地域など、自然性の高い環境を生息地とする種が多く選定された。これら自然性の高い環境の消失や遷移の進行などにより、生息環境の悪化が著しいためと考えられる。
- ・ 個体数、生息環境の減少状況から、フジマシラグモ、ワスレナグモなど 3 種を絶滅危惧種とし

てあげたほか、カネコトタテグモ、アケボノユウレイグモなど 20 種を準絶滅危惧または分布上注目種等とした。

<菌類>

- ・自然な海浜砂地、老齢木を含む多種多様な自然林、林内の湿地及び多湿環境が、森林伐採、開発等によって減少するに伴い、生育環境が限定されている種の生存が脅かされている。
- ・海岸林から里山にかけては、開発、植林化に加え、マツ枯れ等による宿主樹種の減少、林の手入れ不足による生育環境の悪化、遷移の進行の影響を受けた種が選定された。
- ・個体数、生育環境の減少状況から、スナヤマチャワロンタケ、マツタケなど 26 種を絶滅危惧種としてあげたほか、ショウロ、エビタケなど 74 種を情報不足または部会注目種等とした。

(別紙2)

分類群別、カテゴリー別レッドリスト種数一覧

カテゴリー	植物	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	昆虫類 ^{※3}	陸・淡水産貝類	クモ類	菌類	合計	
絶滅	3	2	0	0	0	0	6	1	0	0	12	
野生絶滅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
絶滅のおそれのある種	絶滅危惧Ⅰ類	205	0	20	1	2	17	34	18	2	11	310
	ⅠA類	62	0	6	1	2	8	20	7	0	0	106
	ⅠB類	143	0	14	0	0	9	14	11	2	11	204
	絶滅危惧Ⅱ類	212	3	32	0	3	6	26	11	1	15	309
準絶滅危惧	58	8	14	1	5	2	36	26	7	17	174	
情報不足	20	12	4	2	1	3	31	11	0	21	105	
絶滅のおそれのある地域個体群	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	5	
要注目種	現状不明	59	0	0	0	0	15	0	0	0	74	
	分布上注目種等	27	1	5	2	0	7	0	13	0	70	
	部会注目種	108	2	3	2	3	19	35	0	36	208	
合計	692	31	78	8	15	54	199	67	23	100	1,267	

作成された県産目録種数 ^{※1}	4,256	60	408	19	20	218	7,306	214	507	1,326	14,334
評価対象とした県産種数 ^{※2}	3,069	51	402	16	18	134	7,147	191	506	1,325	12,859
絶滅のおそれのある種数の合計	417	3	52	1	5	23	60	29	3	26	619
絶滅のおそれのある種の割合(%) [☆]	13.6	5.9	12.9	6.3	27.8	17.2	0.8	15.2	0.6	2.0	4.8
レッドリスト種の割合(%) [☆]	22.5	60.8	19.4	50.0	83.3	40.3	2.8	35.1	4.5	7.5	9.9

※1 県産目録種数は現在までに報告されているもの。植物は現在までに記録されている全維管束植物の種類数。動物は種及び亜種。

※2 原則として在来種。植物では品種、雑種及び外来種を除いたもの。動物では、外来種、偶産種等、各部会で判断したものを除いたもの。

※3 トンボ目、ゴキブリ目、カマキリ目、ナナフシ目、ハサミムシ目、バッタ目、コウチュウ目、チョウ目及びカメムシ目(水生種)に限る。

☆ 評価対象とした県産種数に対する割合

静岡県版レッドリスト改訂の種数

カテゴリー	植物		哺乳類		鳥類		爬虫類		両生類		淡水魚類		昆虫類		陸・淡水産 貝類		クモ類	菌類	合計				
	2004	2017	2004	2017	2004	2017	2004	2017	2004	2017	2004	2017	2004	2017	2004	2017	2017	2017	既存分類群		新規分類群	分類群計	
																			2004	2017	2017	2017	
絶滅	5	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	1	0	0	9	12	0	12	
野生絶滅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
絶滅危惧Ⅰ類	199	205	0	0	18	20	1	1	2	2	10	17	19	34	17	18	2	11	266	297	13	310	
ⅠA類	38	62	0	0	4	6	1	1	1	2	6	8	15	20	9	7	0	0	74	106	0	106	
ⅠB類	161	143	0	0	14	14	0	0	1	0	4	9	4	14	8	11	2	11	192	191	13	204	
絶滅危惧Ⅱ類	202	212	2	3	26	32	0	0	3	3	6	6	24	26	14	11	1	15	277	293	16	309	
準絶滅危惧	55	58	5	8	14	14	0	1	2	5	3	2	21	36	22	26	7	17	122	150	24	174	
情報不足	22	20	8	12	6	4	2	2	1	1	2	3	40	31	10	11	0	21	91	84	21	105	
地域個体群	0	0	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3	5	0	5	
要注目種	現状不明	61	59	0	0	0	0	0	0	0	2	0	9	15	0	0	0	0	72	74	0	74	
	分布上注目種等	32	27	1	1	5	5	2	2	0	0	8	7	15	15	0	0	13	0	63	57	13	70
	部会注目種	87	108	5	2	3	3	2	2	2	3	22	19	24	35	0	0	0	36	145	172	36	208
合計	663	692	25	31	72	78	7	8	10	15	53	54	155	199	63	67	23	100	1048	1144	123	1267	
絶滅のおそれのある種数の合計	401	417	2	3	44	52	1	1	5	5	16	23	43	60	31	29	3	26	543	590	29	619	

新規	39	6	6	1	5	5	45	7	114
変更	42	8	9	0	2	10	62	13	146
削除	10	0	0	0	0	4	1	3	18
									増 219種